

令和5年度第1回一関市廃棄物減量等推進審議会 会議録

- 1 会議名 令和5年度第1回一関市廃棄物減量等推進審議会
- 2 開催日時 令和5年6月20日（火） 午後1時30分から午後3時まで
- 3 開催場所 一関市役所 2階大会議室A
- 4 出席者
 - (1) 委員 佐藤和久委員（会長）、菅原勝委員（副会長）、狩野勝彦委員、兜千尋委員、菅原寿基委員、橋本華恵委員、吉川真理子委員、千葉耕三委員、千葉あけみ委員、佐藤文橘委員、三浦友子委員、菅原幸子委員、千葉幸子委員
 - ※欠席委員 小野寺真澄委員、須藤章委員
 - (2) 事務局 佐藤和浩市民環境部長、西山朋志生活環境課長、佐藤寛幸環境衛生係長、庄子淳也主任主事、金野智大主事
 - (3) オブザーバー 一関地区広域行政組合 菅原彰一関清掃センター所長

5 議題

一般廃棄物の減量化及び資源化に対する取組について

- (1) 令和5年度一関市一般廃棄物減量実施計画について（協議）
- (2) 令和5年度新規事業について（協議）

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 2人（うち報道機関2人）

8 佐藤和浩市民環境部長挨拶

本日は、お忙しい中、一関市廃棄物減量等推進審議会にご出席いただき大変ありがとうございます。

また、皆様方におかれましては、審議会委員の委嘱について、快くお引き受けいただき、あらためて御礼申し上げます。

この審議会につきましては、一般廃棄物の減量等に関する事項を審議いただくため設置しております。当市で令和4年3月に策定した、令和4年から令和8年を計画期間とする一般廃棄物減量基本計画については、一関市総合計画の分野別計画であります一関市環境基本計画の個別計画として位置付けております。また、一般廃棄物減量基本計画に基づき、毎年度、一般廃棄物減量実施計画を定めております。一般廃棄物の減量化及び資源化について、市民の皆様や、事業者の皆様にご協力いただきたい具体的な内容をこの計画でお示しさせていただいているところであります。

本日は、一般廃棄物減量と資源化の今年度の取組について、皆様からご意見を頂戴し

たいと考えております。

新たな一般廃棄物処理施設整備につきましては、一関市と平泉町で構成する一関地区広域行政組合の事務ではありますが、地域の方々から様々なご意見をいただいているところでもあります。並行して、今後の廃棄物の処理の方法や収集の方法などについて、一関地区広域行政組合が主体となり、一関市と平泉町が一体となって検討を進めておりますので、委員の皆様からの意見も伝えてまいります。

廃棄物の減量と資源化については、市民の皆様のご理解、ご協力が不可欠であり、計画をより効果的に進めていくために、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

9 会長・副会長の互選

互選の結果、会長に佐藤和久委員、副会長に菅原勝委員を選出した。

10 審議内容

(1) 一般廃棄物の減量化及び資源化に対する取組について（協議）

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 ジモティーとピリカの活用について、これは現時点で市民の皆さんにはどのような形でお知らせされているのか。

事務局 どちらも市のホームページと市の広報にそれぞれ記事を掲載し、市民の方に向けて情報発信している状況である。また、今年度からLINEを使った情報発信も始まり、そちらの方でも定期的にお知らせしたいと考えている。

委員 人口が減少しているが、世帯数が増えている中でごみの量も増えている。世帯数が増えることによってごみの量が増えているのか、それともコロナ禍が終わり、ごみの排出量が多くなったのかどちらなのか。人口が減っているけれども世帯数は増えているという現状の中で、そこがわからない。

事務局 世帯数が増加しているということについては、手元にデータがないので分からないが、人口減少が進む中で、ごみの総量もそれに比例して減っている。ただ、一人あたりの排出量が減っているのかというと減っていないのが現状である。

委員 質問と確認がある。一般廃棄物の排出量の予測と目標だが、これは平泉町と一関市の合算計算でよいのか。

事務局 こちらについては、市の計画となっており一関市の予測と目標値になっている。平泉町は含んでいない。

委員 一人1日当たりの排出量の数値にあまり変動がなかった。平泉町の分と一関市の分で分けして計算しているのか。確認したいが、可能か。

例えば、可燃ごみを収集するにしても清掃センターに持ち込むたびに計量しているため、それが一関市から出たごみか、平泉町から出たごみかはっきりわかるのではないかと。それが、数値にしっかりと盛り込まれているのか。

事務局 一関市と平泉町とで収集業者が違うので、それぞれどこで出たごみなのかは判断できる。したがって、一関市で出たごみに対しての目標値等の数値になっている。

委員 なかなかごみが減らない原因は究明されているのか。

事務局 ここ2、3年でみると、コロナ禍で在宅時間が多くなり、家の片づけをする人が増えたことにより、なかなか減らないのではないかと分析している。長い期間で考えた場合の原因については、正確には分析できていない状況である。

委員 今回の資料が今年度の数字だけなので、何年かの時間的な変化が示されていない。今年度から参加された方は、状況が分かりづらいと思う。昨年度までのこの委員会の話としては、人口が減っているため、ごみの総量は少しずつ減っているが、一人あたりにすると減っていないということだったと思う。

コロナ禍になってから、ごみの量が逆に減るのではないかと考えていたが、むしろ増えたことについては、在宅時間が長くなり家にある物を片付けて、捨てる行動に出た人が増えたのではないかと市の方では考えていた。様々、市の方も考えているが、正確なところはわからないというのが答えではないのかと思う。

委員 一人1日あたりの排出量817グラムというのは、インターネットで調べるとほとんどの市町村でこの数字が出てくる。どうしてこの数字になっているのか。数年前に、長野県で一番排出量が少なかったときの目標値が817グラムだった。この数字は目標として掲げているのか。また、817グラムとは実際にどのくらいの量なのか。実際に測ってみたとき水が含まれているとすごく重たい。ごみを減らす場合、水を切るなど基本的なところからしていかないと減らないと思う。一人一人がごみを本当に減らしたいのであれば、817グラムのごみはどのくらいの量で、水を含むとより重くなるなど何か示すものが欲しいのではないかと。また、817グラムの数字はあくまでも目標として掲げたのか。

事務局 令和5年度の目標値が817グラムとなっている。一般廃棄物減量基本計画で、令和4年度の目標値は822グラム、令和5年度は817グラムと減っていき、令和8年度には803グラムを目標に掲げている。

また、817グラムとはどのくらいの重さなのかという部分については、主に生ごみは水を含むと重くなるなど、今後の市民への周知などの部分で反映させ

ていきたい。対応について検討する。

委員 今現在、一人1日当たりの排出量の実績は何年度まで出ているのか。それに対しての目標をお示しいただければ、皆さんがわかりやすいと思う。

事務局 令和2年度の実績値が822グラム、令和3年度が832グラムとなっている。

委員 実績値は、可燃ごみだけではなく資源ごみも含めた数値か。

事務局 そのとおり。

委員 ジモティーについて、例えば、学校の制服など使わなくなった物も対象になるのか。

事務局 出品物に決まりはない。出品物を見ると、使わなくなった自動車など様々なものが取引されている状況のようである。また、話のあった制服も取引されていると思われる。

委員 新規事業2件について、どのくらいの成果、目標への貢献度を見込まれているのか、具体的な数値があれば教えていただきたい。また、先行事例として、他の市町村でこのような取組を導入した結果、減量化に役立った実績があれば教えていただきたい。

事務局 ジモティーについては、株式会社ジモティーより定期的に一関市内の取引について情報をいただくこととなっている。ジモティー上の取引は、計量がないので正確な取引の量は把握できないが、取引された物、件数などからおおよその量を試算できると考えている。

次に、ピリカについては、拾われたごみの量の把握は難しいため環境美化の取組として、市民の方に発信していくということで考えている。

委員 ピリカについて質問がある。これは任意で皆さんがごみ拾いをする。また、アプリに登録し報告をする。あくまで任意である。それはいいのだが、企業名で登録されている部分もある。その場合、拾ったごみは何扱いになるのか。それはどこで処分するのか。いわゆる、事業者の活動になると事業系一般廃棄物になると思うが、これは自治体で受け入れ可能か。

事務局 企業名でも登録できる。社員の皆さんで地域清掃をしていただくということは非常に素晴らしいことなので、そういった活動も推進していきたいと考えている。また、拾ったごみの取扱いについては事業系一般廃棄物になる。それは、家庭ごみとして集積所に出せないなので、基本的には事業者の責任において事業系一般廃棄物として処分する責任がある。

ただ、昨年度、市内の環境美化活動のために、ボランティアとして清掃していただいた活動に対し、市として何か協力できないかということで一関地区広

域行政組合と検討をし、ボランティア清掃分について所定の手続きをすることで拾ったごみを清掃センターへ搬入できる仕組みを作った。

委員 できれば搬入された廃棄物を用途別に区別して、受け入れていただきたい。何でも受け付けるわけではなく、サイトを利用して搬入されたごみという部分で区別していただきたい。

委員 食品ロスの削減について、最近テレビで見たが都市部ではスーパーやコンビニでの食品ロスがかなり増えているという報道がされていた。都市部だけではなく、地方でも食品ロスが出ていると思う。また一昨年、給食について学校に聞いてみたが、食べ残しが多く、その原因は好き嫌いが多いためではないかとの話だった。やはり、スーパーやコンビニではかなりの廃棄する量が出ていると思う。その対策方法について何か考えはないか。賞味期限などの問題もあると思った。

事務局 スーパーやコンビニで食品ロスが増えているのではないかとということであるが、業態によって分類しておらず、その点について回答はできないが、市内の事業活動に伴って生じた廃棄物の総量は減ってきているという状況である。

食品ロスを出さないようにするというところでは、事業者の責任においても努力していただく部分であると考え。また、最近では手前取りという言葉が認知されるようになるなど、食品ロスを削減するための様々な取組がある。食品ロスを発生させないようにという意識をそれぞれが持つことが大事になることから、引き続き、事業者や市民の方々に対しての普及啓発を継続して行っていきたい。

委員 資料3ページ目にある一般廃棄物の排出量には、事業系で出る食品廃棄物、いわゆる、可燃ごみはこの数値に含まれているのか。

事務局 一般家庭だけでなく事業者も含めた数値である。

委員 この排出量を減らすためには、事業者に対して市の方から何かアクションを起こしたほうがいいのではないか。

事務局 現状、事業者に対しての呼びかけは行っていないので、今後の取組の中で検討していきたいと思う。

委員 3ページ目の数値に事業系一般廃棄物が入っているならば、経済成長の中で観光業が加速すれば、一人1日当たりの排出量が増えるのは当たり前ではないか。

事務局 事業系廃棄物も含めた数量になっているので、観光業が加速すればそれに伴って廃棄物の量も増える可能性はある。

委員 目標の数値は何に左右されるのか。

事務局 この目標値は、一般家庭から出るごみ、市内の事業活動に伴って出るごみも含めた数値になっている。

委員 ピリカやジモティーをやるのはいいが、登録することは任意なので流れが読めない。観光業と違って任意なので、数値が年によって変わる。その部分については、この数値に上乘せになる可能性があるということによろしいか。

事務局 ジモティーは、あくまで個人間での取引であり、清掃センターを通さないものになる。そこでの取引が増え、ごみとして清掃センターへ搬入されなければごみの総量としては減ってくると思っている。

ピリカについては、ごみを拾った分だけ清掃センターに搬入されるごみの量は増えることになるが、ごみを減らすというところと、まちを綺麗にしていくという両方を実現していきたい。

委員 今回の資料は簡略化して作られていると思っている。前年度やその前の年度は、もっと細かく、また、数字が多すぎたため今回は簡略化されていると思った。3ページの数字は合計になっている。ただ、話合いをするにあたって、皆さんは家庭でどれだけのごみを減らせるかということに対して意見を言おうと思っても、事業系のごみはどうやって減らせるのかとなると自分ではどうにもならない。どういう対策を取れるかとなったときに、合計の数字に対してどうしたらいいのか。その辺の疑問や混乱があると思う。

事務局 市の方で出た一般廃棄物の量は、最終的に国の方に報告する。岩手県で取りまとめを行っており、一人1日当たりの排出量に事業系のごみを含めた量の報告となっている。他の市町村も同様の調査となっている。

家庭系と事業系の内訳はわかるのだから、それぞれに対しての実績があり目標値があればいいのではないかとのことだが、このことについては、今現在分けた形での目標値は定めていないため、今後どのようにしていくか検討していきたい。

委員 いずれ、事業系も家庭のごみもトータルで減らさなければいけないことには変わらないと思う。

委員 家庭から出るごみは増えていると思う。近くのスーパーに行くが、午後6時に行くとお弁当類は一切ない。この時間というのは、半額になっている時間帯であり、半額だから買って好きなものだけ食べるという人が結構いる。高齢者の方も結構お弁当を買われる。半額だから3つくらい買って好きなものだけ食べ、残りは捨てるという人が結構いると民生委員の中で話題になっている。人

口が減少しているのに世帯数が増えていて、ごみも増えているというのはこのようなところにもあるのかと思う。東京のスーパーでは、お弁当にご飯が入っていないくて、後から注文して入れる。少し手間だが、それですごく食品ロスが減ったということがあった。普通のお弁当はご飯の量が多い。このように、もう少し私たち一人ひとりも気を付けなくてはいけないことをやっていかなければいけないのではないか、認識していかなければいけないのではないかと思う。

ごみを減らすなかで、やはり一番いいのは、一人一人の日常の細かな気遣い、それからお米を作ってくれた方への感謝というところが、ごみを減らす一歩ではないのかと思う。

委員 賞味期限と消費期限の区別がどれだけ市民の方がわかっているのか。まず、賞味期限と消費期限の違いを皆さんに理解してもらうところから始めることによって食品ロスは減っていくのではないかと思う。

委員 ピリカでのボランティア活動のごみ拾いもとてもいいと思う。いいと思うが、ごみを捨てないという活動の方にも力を入れるといいと思った。例えば、シンガポールでごみを捨てたら罰金というようなことで、まちが綺麗になったと聞いたことがある。そのような意識を植え付けられるといいと思った。また、これも海外の話になるが、着終わった制服などを卒業生の方が綺麗に洗って、次の新入生の人にあげるといような活動をしていると聞いたことがあるので、このような活動も学校と連携して取り組むのもいいと思う。

リサイクル率が16.9%と書いてあるが、新聞で読んだのだが、鎌倉ではリサイクル率が50%以上となっていた。どうしてそれができているのかわかるか。

事務局 鎌倉市でどのような取組を行い、リサイクル率が50%を超えているのかは承知していない。他の自治体で同様にリサイクル率の高いところでは、自治体として家庭から出る生ごみを集めて堆肥化し、自治体の方で売る。極力、生ごみを発生させないことでリサイクル率を上げている取組を行っている事例があるようだ。

委員 10年くらい前に横浜の方で、ごみ収集車がごみを減らそうというような呼びかけをしながら回収していた。このようなことは行っているか。

事務局 一関市では、そのような取組を行っていない。今後の参考にさせていただく。

委員 リサイクル率の話だが、一関市でも焼却灰をセメント会社に持っていき、リ

サイクル率を上げるという取組をしていたが、今でも継続しているか。
事務局 一関地区広域行政組合にて、継続している。

11 担 当 課 市民環境部生活環境課